

組織目標評価報告書（平成21年度）

部局名： 附属図書館

	組織目標	達成状況(成果)
教育	該当なし	
		達成度: 4 3 2 1
研究	該当なし	
		達成度: 4 3 2 1
センター業務	<p>・快適な自主学習環境の提供や教育のための基盤的資料の整備を行うことにより、学生の自発的な学習を推進するなど、学習・教育を支援する。</p> <p>・学生・教職員を対象とする図書館情報リテラシー教育を充実させ、全学の学習・研究のレベルアップに寄与する。</p> <p>・電子ジャーナルを始めとする研究基盤を整備・充実させることにより、研究支援を行う。</p> <p>・本学の教育研究成果物を収集し、その情報発信を推進するとともに、本学が核になって地域との連携を深めることにより積極的な地域貢献を行う。</p>	<p>【快適な自主学習環境の提供】</p> <p>平成20年度末の耐震工事に伴い、本館2階の事務スペースを縮小し、グループ学習室(2室)を創出した。その結果、グループ学習室の利用時間・回数とも増加し、多くの学生の要望に応えることが可能となった。</p> <p>閲覧室・書庫に避難誘導ステッカーを貼付し、利用者への安全配慮の向上を行った。</p> <p>防犯カメラの設置及び対面閲覧機の足元仕切り追加工事を実施した。これにより7月の設置以降不祥事は0件となり、より安全な学習環境を提供することができた。また机上の注意喚起の立札を撤去することができ、より広く机を利用できることとなった。</p> <p>・鹿田分館では平成22年4月より3階部分への行き来について、これまでの外側階段ではなく、内側階段からできるように変更し、利便性を向上させる。そのため、今年度に防犯カメラの増設、放送設備や内側階段の整備を行った。</p> <p>【教育のための基盤的資料の整備】</p> <p>学生から希望のあった資料については高額なものでも購入し、秋には学生達によるブックハンティングを継続実施した。またシラバスに掲載された図書は掲載後なるべく早期に購入するものとし、来年度の図書も可能な限り年度内に納品されるように発注を行った。</p> <p>【図書館情報リテラシー教育の充実】</p> <p>新入生向けのオリエンテーション(4・5月)を実施。回数42回。参加人数1338人。DB毎に講習を実施。「学術情報の基礎知識」を新入生全員に配布。新たに「文献入手講座(基礎編)」を理系編・文系編それぞれ2回ずつ実施した。学生からのニーズが高く、参加できなかった学生から後日資料を求められるほどであった。</p> <p>・鹿田分館ではデータベース等講習会を18回行い、計307名の参加があった。</p> <p>【電子ジャーナルを始めとする研究基盤の整備・充実】</p> <p>附属図書館運営委員会のもとに設置した電子ジャーナル等選定ワーキンググループにおいて、本学の電子ジャーナル等整備の基本方針となる「岡山大学における電子リソースの整備方針について」等を策定するとともに、平成22年度における電子ジャーナル、二次情報データベース及び学生用図書予算の拡充を実現して図書館資料の安定供給の基盤を整えた。</p> <p>【本学の教育研究成果物の収集・情報発信の推進】</p> <p>岡山大学学術成果リポジトリに、本学の研究成果約4,200件を新たに登録し、インターネットを通じて公開した。また、県下3自治体の約200件の発掘調査報告書の電子化を行い、岡山県遺跡資料リポジトリ上で公開した。</p> <p>・出版会事業については、今年度2点の学術書、3点の教科書を刊行した他、池田家文庫資料を活用した叢書の刊行も開始した。</p>
		4 ③ 2 1
社会貢献	<p>・本学が収集した資料を活用し、利域との連携を深めることにより積極的な地域貢献を行う。</p>	<p>【地域連携・地域貢献】</p> <p>池田家文庫絵図展を開催、入場者1780名。後楽園ワークショップを開催(小学生向け)、参加者76名。「池田家文庫絵図をもって岡山を歩こう」(公開講座・全5回)を開催、参加者127名。アンケート結果などからは全体的に好評を得ている。参加者の方が絵図を閲覧するために図書館に来館されるなど、絵図や図書館に対する距離は短くなっている。これからも続けて行く予定である。</p>
		4 ③ 2 1
<p>【自己評価総括記述欄】※目標及び指標の達成状況について総括し、次年度に向けた改善点等を記載してください。</p> <p>特に社会貢献の側面では、これまで行ってきた附属図書館の多種多様な取り組みに対し、平成21年度の国立大学図書館協会賞を受賞するなど対外的な認知を受けた。一方、今年度の入館者は対前年比相当の減少になっており、キャンパス内における学生の滞留動向の分析を試み、安全安心で快適な自学自習空間の提供という使命を果たす上で、利用者ニーズの核心を探りつつ改善策を講じていく必要がある。特に、安全面から極めて利用しづらい状況になっている書庫や耐震改修等で動線が遮断されている現状から脱却するには、施設面の改善による自由接架の拡大や目録情報の遡及入力による資料探索環境の整備など、さらなる基盤整備が必須である。引き続き日常業務における多様な工夫を続けると共に、中長期的な課題にも取り組む必要がある。</p>		

【達成度】 4:非常に優れている 3:良好である 2:概ね良好であるが改善の余地あり 1:不十分であり改善を要する

注)本様式は一般的な学部・研究科用であり、部局の特性に合わせて設定した領域・指標により修正してください。

[組織目標一覧へ](#)